

高梁川流域地域づくり連携推進事業 成果の合意書

事業名 : みんなの居場所実現プロジェクト

グループ名: みんなの居場所研究会

高梁川流域地域づくり連携推進事業は、高梁川流域市町に地域課題を解決するノウハウの拡がりを生み出すことを目的として実施するものである。

本事業の実施にあたり、倉敷市(以下「甲」という。)と手と手と手 あさくち(以下「乙」という。)は、目指す成果とそれを測る指標を以下の内容で合意する。また、乙は以下の実現を目指して事業を実施し、甲はその進捗状況を確認し、必要に応じて助言又は指導を行う。

1 ノウハウの拡がり (グループ参加団体間でのノウハウの拡がりに、どのような成果があるか)

(1) 長期アウトカム(長期の成果)

目標	地域事業との関わりや地域団体との連携についてのノウハウ、活動資金や寄付の募り方等を学ぶことで、来年度以降も継続して居場所(地域食堂含む)を定期開催できることを目指す。
----	---

(2) 短期アウトカム(令和6年度事業の成果)

目標	居場所運営に関心のある人、協力してくれる人や団体と積極的につながることで市内の関係人口を増やす。
指標	居場所運営に協力してくれる人、団体を増やす。 現在 22 人 → 50 人

(3) アウトプット(令和6年度事業の直接の結果)

目標	仲間のいる不登校の親の会ふわさぼ倉敷(以下ふわさぼ)から居場所等の運営ノウハウを学ぶための勉強会の開催(1回)や、座談会の見学(2回)を行う。居場所開催後に、ふわさぼのメンバーと反省点や改善点を共有するための振り返りを行う。
指標	勉強会や座談会の参加者数 現状:0人 → 実施後:延べ 20 人

2 地域課題の解決 (イベント等に参加した住民に対して、どのような成果があるか)

(1) 長期アウトカム(長期の成果)

目標	浅口市内(鴨方、金光、寄島)に保護者や子どもが集える居場所が多く設置されることで、居場所の選択肢を増やす。3町それぞれで地域食堂を実施し、広い世代間の交流(話す、つながる)の場とすることで、悩んでいる保護者の数(居場所についての相談件数)を減らすことを目指す。
----	--

(2) 短期アウトカム(令和6年度事業の成果)

目標	長期休みに増加する相談(こどもの居場所や過ごし方・保護者のストレス・子どもへの暴力)の件数を減らす。
指標	相談件数の減少を目指す。 現在 1ヶ月 10件 → 1ヶ月 5件

(3) アウトプット(令和6年度事業の直接の結果)

目標	浅口市内3町において、長期休暇の間、①学ぶ ②集う ③食べるについての居場所の設置を行う。主に、小中学生とその保護者が対象とするが、未就学児、高校生、大学生、地域の方の参加も可能とする。
指標	地域食堂を含む居場所設置日を3町合計で 30日、参加者の総数のべ 500人を目標とする。

令和6年6月28日

甲 倉敷市西中新田 640 番地
倉敷市
倉敷市長 伊 東 香 織



乙 浅口市金光町大谷 721-4
手と手と手 あさくち
主宰 大武 智恵

